

訳 明 文 (3)

○身近なものに目を向けよう○つなぐ言葉②

、 送 り だ



次の会話文を読んでみましょう。

A 『すみません、『シートン動物記』の中の『オオカーでするません、『シートン動物記』の中の『オオカー

にあります」 ほん なら、右側の列の一番奥の本棚 目が入っている本なら、右側の列の一番奥の本棚 と こ はい しょう しょうく ほんだな と しょい しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう

です」

「右側の列の一番奥の本棚ですね。ありました。
のです」

「お側の列の一番奥の本棚ですね。ありました。

)、。 では、「指示語(こそあど言葉)」を使うとどうなるでしょと、文章が必要以上に長くなり、読みにくくなります。と、文章が必要以上に長くなり、読みにくくなります。文章中に同じ言葉が、そのままの形でくり返し出てくるぶんぱんぽう おな ことば

王ロボ』の話が入っている本を借りたいのですが。」「すみません、『シートン動物記」の中の『オオカミ

А

B 「その本なら、右側の列の一番奥の本棚にあります。」

A 「あそこですね。ありました。これをどうしても

読みたかったんです。」

指示語には次のようなものがあります。しをさけて、後につなぐ言葉です。「指示語」は、主に**直前に述べた内容を受けて**、くり返「指示語」は、主に**直前に述べた内容を受けて**、くり返れ

◎ 指示語の種類

様 * * * * * * * * * * * * * * * * * * *		ものごと	方き場ばものでいる。			指すもの	
こんな(だ)	こう	この	こちら	CIC	これ	もの []	自分に近い
こんな(だ) そんな(だ)	そう	その	そちら	そこ	それ	ものそ	相手に近い
あんな(だ) どんな(だ	ああ	あの	あちら	あそこ	あれ	遠いものあ	どちらからも
どんな(だ)	どう	どの	どちら	どこ	どれ	いものと	はっきりしな